

## 令和4年度 食に関する指導について

### 1 教科等における食に関する指導

各教科及び学級活動の時間に担任教諭と連携し、学校給食を教材とした食に関する指導を行う。今年度は別紙「令和4年度 食に関する指導計画」に沿って、授業時間だけでなく給食の時間を活用した指導を内容や方法を工夫して行う。また、学級担任が食に関する指導を行うときに活用できる ICT 教材の作成を進める。

### 2 給食の時間における食に関する指導

児童生徒に望ましい食習慣と食に関する実践力を身に付けさせるため、準備から片付けの実践活動を通して、計画的・継続的な指導を行う。また、給食に地場産物を活用したり、郷土料理や行事食を提供したりすることを通じて、地域の文化や伝統に対する理解と関心を深める。

### 3 個別的な相談指導

食物アレルギーを有する児童生徒や、食行動に問題を抱える児童生徒等を対象とした個別的な相談指導を、養護教諭や学級担任と連携しながら行う。

栄養教諭が配膳や会食、片付け時に各学級を巡回し、児童生徒に直接指導を行う。

### 4 教職員への情報発信

- (1) 効果的な給食の時間の指導方法について知らせ、指導媒体と指導案を提供する。
- (2) 給食及び食の重要性や残食量の現状を知らせる資料を提供する。
- (3) 教職員を対象とした「食育メッセージ」を発行し、食に関する指導に役立つ情報を教職員全員に発信する。

### 5 児童生徒・保護者への情報発信

- (1) 献立や食材、行事食等について校内放送資料を提供し、給食時に放送する。
- (2) 献立や食材、行事食等について給食だよりや掲示資料等で知らせる。
- (3) 児童生徒を対象とした「給食だより」を毎月発行し、給食の内容や季節に沿った食に関する情報、クイズ等を掲載し、食に対する興味関心を高め、食べることへの意欲につなげる。保護者にも関心をもってもらえるように給食のレシピを掲載する。
- (4) 保護者を対象とした「食育だより」を発行する。児童生徒の食の担い手である家庭へ働きかけることで食生活の改善につなげることをねらいとして、学校給食や栄養面、健康面など、時期に合った話題を取り上げ紹介する。

### 6 学校行事への参加

各学校主催の給食試食会や給食参観、学校保健委員会、就学時健診等に参加し、保護者や児童生徒を対象として食に関する講話等を行う。また、各学校との連携を深め、教職員の食育の関心を高めていく。

## 令和4年度 食に関する指導計画

	学 年	指導テーマ	指導のねらい	指導時間
小 学 校	1年	給食を食べて元気で大きくなろう	給食にはたくさんの食べ物が入っていることを知り、いろいろな食べ物を食べることで元気な体をつくることを理解する。	給食の時間
	2年	野菜について知ろう	野菜の成長や野菜の種類、野菜の働きなどを知り、元気な体をつくるためには野菜が大切であることを理解する。	給食の時間 または 授業時間
	3年	すききらいしないで給食を残さず食べよう	健康に過ごすためには、バランスよい食事をするのが大切なことが分かり、すききらいしないで食べようとする意欲をもつ。	
	4年	給食を残さず食べよう	残した給食がごみとして処分されることについて知り、環境への影響を考える。残さず食べようとする意欲をもつ。	
中 学 校	5年 又は 6年	弁当の日	自らが弁当を自作する活動を通して、自分で食べるものは自分で作るという自活できる力を身につける。	5年又は6年  (対象学年と内容については各校で打ち合わせ)
		日本の食文化のよさを考えよう	ご飯とおかずを組み合わせた日本型食生活や日本の食文化のよさを知り、大切に思う気持ちをもつ。	
		感謝の気持ちをもって食べよう	給食ができあがるまでにどのような人や物がかかわっているのかを知り、どのように食べたなら感謝の気持ちを伝えられるか考える。	
中 学 校	1年	成長期の栄養 カルシウム摂取と牛乳の大切さを知ろう	カルシウムの役割を知り、積極的に摂取する必要性を理解する。また、カルシウム摂取の観点から牛乳の必要性について考える。	各校の実態に合わせて、指導内容・時間を調整
	2年	成長期の栄養 適切なエネルギー摂取とスポーツ栄養について知ろう	エネルギーの役割と適切なエネルギー摂取について考え、自分に必要なエネルギーを摂取する必要性を理解する。また、スポーツで自分の実力を十分に発揮するための栄養管理について知る。	
	3年	成長期の栄養 生涯健康に過ごすための食事を考えよう	生活習慣病の特徴を知り、毎日の食事が生涯の健康に大きく影響することを考え、健康に過ごすための食事をする大切さを理解する。	

※その他、各教科でのTT、学校保健委員会講師など要望に応じて計画・実施する。